

公益社団法人日本ライフル射撃協会
2024年社員総会議事録

日時:2024年6月15日(土) 13:05~15:20

場所:ナショナルトレーニングセンターイースト会議室 A・B・C

開会・出席者確認 正会員71名中66名

本総会の議決権合計66票 $66/71=93.0\%$

対面出席者 28名

松丸喜一郎、田村恒彦、大野明敏、三木(池部)容子、平井宏治、佐橋朋木、
成山悟史、田口亜希、松島愛、栗生由紀、尾崎和郎、仲本渚、岸高清、
永谷喜一郎、大川正視、高橋祥光、谷津義男、田中僚一郎、岡本盛幸、
廣田眞作、上野茂男、森川修行、高柳喜人、照屋峰一、五十嵐治人、西野直樹、
半谷範一、田中辰美

委任状提出8名(他2名は欠席者へ委任のため欠席) 書面決議30名 計38名

出席理事・監事:

代表理事 松丸喜一郎、田村恒彦、横山(谷津)幸子

理事 平眞、大野明敏、三木(池部)容子、平井宏治、佐橋朋木、成山悟史、
田中僚一郎、田口亜希、松島愛、穂苅美奈子、栗生由紀、尾崎和郎、
仲本渚、五十嵐治人、田中辰美

以上出席18名

監事 岸高清、永谷喜一郎

以上出席2名

議長:松丸喜一郎

議事録作成者:藤井彌

議事録署名人指名:松丸喜一郎、谷津義男、高柳喜人

● ミズノスポーツ振興財団からの助成金贈呈式

社員総会に先立ち、ミズノスポーツ振興財団を代表して藁澤智之事務局長より、
日本ライフル射撃協会の松丸会長へジュニア育成に対する2024年度助成金
300万円が贈呈された。

1. 出欠確認

13時05分、平専務理事が開会を宣言し、定款第20条に基づく定足数の3分の2
を満たしていることを報告し、本総会の成立を確認、定款第19条により議長は会
長が当たることを報告した。

2. 議事録署名人指名

議長は谷津義男氏と高柳喜人氏を議事録署名人に指名し、両氏ともこれを承諾
した。

3. 会長挨拶

松丸会長は、総会が対面で開催できる喜びを述べ、銃刀法の遵守と安全管理の
徹底を強調した。射撃スポーツの共生スポーツとしての側面や、脳の活性化効果

を社会に発信する重要性を訴えた。競技者減少対策として「e-shooting」を紹介し、歴史の新見解報告についても言及した。議事進行への協力を求め、次第に沿って議事を進めると述べた。

4. 会長表彰(推薦母体)

会長特別表彰は、鷲見勝彦氏(本部)および山口円氏(北海道ライフル射撃協会)が受賞した。

会長表彰は、江藤清志氏、秋吉春夫氏、および安部定文氏(大分県ライフル射撃協会)がそれぞれ受賞した。

職員永年表彰は、佐々木詩子氏が受賞した。

年間活動賞は、岡田直也氏(ALSOK 所属、選手強化委員会)および野畑美咲氏(明治大学所属、選手強化委員会)がそれぞれ受賞した。

5. 報告事項1

① JOC エリートアカデミー生紹介

次の者を紹介した。

阿部暁梨沙(あべありさ)/ライフル/山形県/高校2年

川村悠夏(かわむらゆうか)/ライフル/高知県/高校1年

② 日本ライフル射撃協会の歴史調査研究状況について

日本ライフル射撃協会の歴史調査研究状況について、日本銃砲史学会の小西雅徳常務理事より、日本ライフル射撃協会の基となる東京共同射的会社が1882年(明治15年)に設立されたこと、東京共同射的協会の設立をもって日ラの起源とみなせるとの歴史的調査結果の報告があった。また、報告後にENEOS 協賛による歴史編の映像が上映された。

6. 審議事項

第1号議案 正会員の承認の件

平専務理事より、資料「第1号議案 正会員承認の件」に基づき説明があった。質疑はなく、以下の者が新たな正会員として承認された。

正会員 甲斐伸一、三浦繁、松本俊廣、品田文祥、石塚靖

本部正会員から加盟団体正会員へ変更 青木満博

第2号議案 2023年度事業報告承認の件

平専務理事より、資料「第2号議案 2023年度事業報告承認の件」に基づく説明があった。特に質疑はなく、案の通り2023年度事業報告が承認された。

第3号議案 2023年度収支決算書承認の件

平専務理事より、資料「第3号議案 2023年度収支決算書承認の件」に基づき説明があった。2023年度収支決算書が原案通り承認された。

質疑応答

本来徴収する金額も上げていく必要がある。補助金など、増額のあてはあるのか。今後の収入の目論見はあるのか。(廣田神奈川県正会員)

→赤字予算を想定していたが、予想外の収支改善で収支均衡がはかられた。しかし

ながら基盤となっている部分の収入は改善されていない。会費収入は安定した財源ではあるが、さらに独自財源をどのように確保していくかが課題である。会費の値上げは検討せざるを得ないと考えるが最後の手段である。まずふるさと納税を進めて欲しい。また、共生スポーツとして共生社会実現という社会貢献を社会に広めていくことによってスポンサー収入を増やしていく。会費については、実銃、ビーム銃以外の eSports をしている若者を取り組む施策によって、会員を増やし、収入を増やしたい。(松丸会長)

第4号議案 日本 eshooting 協会の加盟団体推薦承認の件

平専務理事より、資料「第4号議案 日本 eshooting 協会の加盟団体推薦承認の件」について説明があった。背景については、松丸会長より説明があった。

特に質疑はなく、案のとおり日本 eshooting 協会を日本ライフル射撃協会の加盟団体とすることが承認された。

質疑応答

反対はしないが、実情がよくわからない。加盟団体でどのように説明したら良いのか。(岡本東京都正会員)

→要請があれば、私自身が出向いて説明する。(松丸会長)

第5号議案 会員規程改定承認の件

平専務理事より、資料「第5号議案 会員規程改定承認の件」について説明があった。特に質疑はなく、案の通り公益社団法人日本ライフル射撃協会会員規程の改定が承認された。

第6号議案 日本 eshooting 協会の加盟団体正会員承認の件

平専務理事より、資料「第6号議案 日本 eshooting 協会の加盟団体正会員承認の件」について説明があった。特に質疑はなく、次に掲げるものが新たな正会員として承認された。

正会員 日本 eshooting 協会の加盟団体正会員 福島太一

第7号議案 「加盟団体規程」内の「国体」の記述を「国スポ」に変更することの承認の件

平専務理事が資料「第7号議案 『加盟団体規程』内の『国体』の記述を『国スポ』に変更することの承認の件」について説明した。特に質疑はなく、案の通り「国体」の記述を「国スポ」に変更する加盟団体規程の改定が承認された

7. 報告事項2

① 2024年度事業計画について

平専務理事より、資料「2024年度事業計画について」のとおり報告があった。

質疑応答

- 今年の6月に伊勢原で行う東日本選手権は予算が問題で赤字が見えている。補助金は20万円出るが、役員経費が上がっているため対応に苦慮している。電子標的であるにも関わらず役員数が多く、現在約40名の

役員で運営しているが、半分に減らさないと難しい。今年の6月の大会では無理だが、今後の対応として役員数の基準を減らしてもらえないか。

(廣田神奈川県正会員)

→東日本は G2なので、日本記録が樹立できるため、国際基準に則っている。G3にしてはどうか。(松丸会長)

→G3にすると日本記録が樹立できないため、参加者が少なくなる。(廣田神奈川県正会員)

→ルールが現在の状況に追いついていないものもあるのではないかな。現状にあわせて、もっと効率的なルールを考えてはどうか。また、大きな団体と小さな団体で基準の程度を変えてはどうか。(萩原顧問弁護士)

- 高校生が経費的に優遇されているが、高校で辞める人が多く、メリットがない。大学生のエントリー費を2000円から1000円にしたが、参加者は微増にとどまり、大学卒業後の競技継続にもつながっていない。(廣田神奈川県正会員)

→なぜ学生が競技を継続できないのか、フィードバックをお願いしたい。日本ライフル射撃協会としてどのように加盟団体をサポートできるかも含めて教えていただきたい。(松丸会長)

→大学生は県外に行き、就職後は時間と収入の余裕がない。高校生は国スポがあり、部活動で関わるため高校生の選手は減らないが、大学進学後は射撃を辞める。学生が地元で射撃を続けられる環境が必要である。大会参加に関わる企業の特別休暇も減少している。寄付だけでなく、優秀な大学生の受け入れ先も必要である。(照屋沖縄県正会員)

→学生が射撃を継続しない理由は、他にない面白いスポーツとして学生時代にやって辞める計画があるからである。入り口でやめることを前提にしている。また社会人になると射撃は続けにくい。日本社会、会社で銃に取り組むことを許す状況ではない。警察の検査も平日に行われるなど手続きも大変で結局は銃の世界から離れていってしまう。この状況は数十年昔から変わってきていない。良くしたい気持ちがあるものの、結局は残った数名に地道なフォローの継続が必要である。(大川北海道正会員)

→射撃だけの問題ではなく、社会人がスポーツを継続するのは難しい。ドラスティックな方法が必要で、eSports のようなものに大きく舵を切るべきである。(永谷監事)

- 高校では学校にある銃を使用する、ひとの銃を借りて練習しているのが大半である。借りた道具で行うということは本来の競技とは言えない。コストが高すぎる。安い銃をつくらなければならない。ビーム銃について、ヨーロッパのものがある。まずは国スポでなくても良いので、大人のビーム銃競技を広げる。ビーム銃を大人に広げるにはコストを下げる必要がある。(廣田神奈川県正会員)

→この問題については既に取り組んでいるところである。ご指摘のビーム銃の後継機について、今年度中に提案する。要件として、現在のものは高すぎることを考慮する。(松丸会長)

- 1回の大会で2種目参加できるようにしてほしい。(高橋祥光正会員)
→現在、日程を調整して複数種目に出場できるようにしている。(松丸会長)
- 2024年度の東北ブロック予選を1週間早めるように言われた理由は何か。(高橋祥光岩手県正会員)
→今年の国スポは会期前開催のため、エントリー締め切りが例年より前倒しになったためである。例年通りの日程では、県ライフル協会、県スポーツ協会、開催県、開催市町村、中央競技団体の確認期間が3日間しかなく、間に合わない。今年の国スポが会期前の開催であることは、各県スポーツ協会は数年前から知っていた。(平井国スポ委員長)

② 2024年度収支予算について

平専務理事より、資料「2024年度収支予算について」のとおり報告があった。

③ その他

- 2023年度末会員登録状況について

藤井事務局長より、資料「その他 2023年度末会員登録状況について」に訂正が加えられ、報告があった。

訂正

大学名の一覧において、以下の訂正が行われた。

長崎大学が芸術文化大学に、

日本文理大学が宮崎公立大学に、

清泉女子大学が札幌市立大学に、

酪農学園大学が四国大学にそれぞれ訂正された。

質疑応答

九州地域は、コロナ禍で大学生が激減している。高校生から大学への継続について対策の強化が必要である。(高柳佐賀県正会員)

- ニチラ応援ふるさと納税寄付の状況報告

松丸会長より、資料「ニチラ応援ふるさと納税寄付の状況報告」のとおり報告があった。協力へのお礼と引き続き協力への依頼があった。

- 佐賀国スポのエントリー締切日についての注意喚起

高柳佐賀県正会員から、佐賀国スポのエントリーについて注意喚起があった。例年よりもエントリー締切日が早いため、ご注意とご協力を願いがあった。JSPO システムの受付期限は、期日の17:00である。

議長が閉会を宣言して15時20分に社員総会が終了した。

2024年6月15日

議事録署名人

議長(代表理事) 松 丸 喜 一 郎

松丸喜一郎



署名人(正会員) 谷 津 義 男

谷津義男



署名人(正会員) 高 柳 喜 人

高柳喜人

